

1 学校が取り組むべきこと

- 児童生徒が「自分で課題を見つけ、主体的に学習に取り組む」力を育む

【成果指標】（「めざす守口の教育」に係る児童生徒アンケート）

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定的回答90%以上

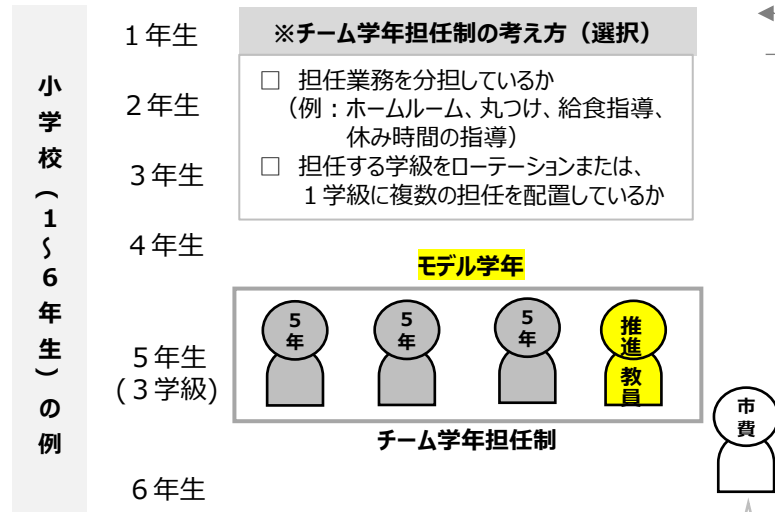
2 R7年度の主な取組

○学力向上推進教員配置事業（R4～）

全校に学力向上推進教員（以下、推進教員）を配置し、

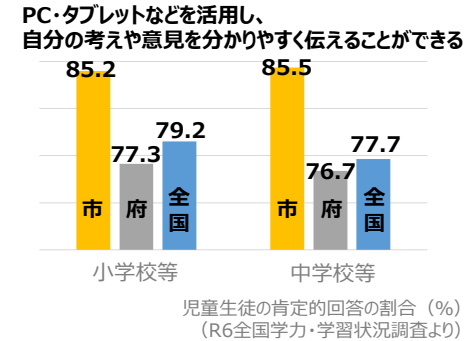
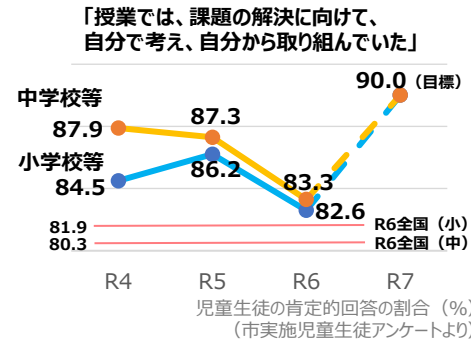
- ① 市主催の学力向上推進担当者会で推進教員へ、最新の情報（市のめざす「ICT・クラウドを活用した授業改善」等）を発信。（R4～）
- ② チーム学年担任制の一員として推進教員を配置。その学年を「モデル学年」と位置づけ、他の教員が日常的に授業を参観。（R7～）
- ③ 全校で年2回の公開授業を実施。教職員は、中学校区1回、市内1回、合計2回の公開授業に参加。（R7～）を、土曜日学習拡充事業（R7～）等と一体的に取り組む、学力向上をめざす。

3 イメージ



○市費教員

- ・推進教員が、学力向上に向けた学校全体のコーディネート業務にあたるよう全校に1名配置
- ・授業の実施（校務分掌は持たない、部活動は担わない）
- ・授業以外に、給食や休み時間の見守り・丸つけ等も含めることとする
- ・市費教員は、推進教員の所属学年かどうかを問わず、必要な業務にあたる



4 R7年度の成果と課題

- ・チーム学年担任制（※）の導入

20
/20校

空き時間が増え、チーム内で授業を見合うことができ、学べる機会がもてます！

チーム対応で時間確保がしやすく、他校の公開授業にも参加しやすいです！

95
/102学年

教科担任制も同時に運用していて、同じ授業を複数回でき、授業が改善できます！

「モデル学年」以外では、教員数の関係で、導入や運用が難しい場合があります。

「モデル学年」以外でも同様に取り組めるよう、府の加配事業や既配置の市費教員を最大限活用し、さらなる取組の拡充が必要。